

令和4年度 学 校 評 価 報 告

草加市立清門小学校
(令和5年2月16日作成)

1 学校教育目標	
なかよく（徳）・・・笑顔であいさつのできる子 かしこく（知）・・・進んで学習する子・確かな学力のある子 たくましく（体）・・・やりとげる子・きたえる子 目指す学校像：「個性輝き 笑顔あふれる清門小」 キャッチフレーズ：「勢い」と「潤い」のある「カラフル」な清門小	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
(1) なかよくの具現化 ・基本方針 「いじめはしない、させない、ゆるさない」 ・「笑顔であいさつ」の推進 ・豊かな心の育成「道德教育・人権教育・特別支援教育の充実」 (2) かしこくの具現化 ・幼保小中一貫教育の推進の継続 ・草加っ子の学びを支える授業の5か条の定着 ・指導方法の改善・学習規律の確立 ・読書の励行、学校図書館の活用を図る。 ・家庭学習の定着 ・児童の主体的で深い学びを実現するための授業改善の推進及び教師の主体的な「一人一公開授業」の実施。 (3) たくましくの具現化 ・体育授業時の運動量の確保 ・さわやかタイム ・家庭と連携した「早寝・早起き・朝ごはん」	成果 ○子どもが「解いてみたい（目はキラキラ）、考えてみたい（心はワクワク）」となるような授業を目指し、教員一人ひとりが主体的に「一人一公開授業」を行った。 ○生徒指導委員会、いじめ対策委員会、教育相談部会などが計画的に実施されることで、校内の諸問題の早期発見・早期対応が図られた。 ○学校運営協議会において、学校の諸問題について協議し、承認を得ることで改善することができた。 ○ICTを活用した学習を推進し、環境整備を行い、日常的にタブレットを活用した効果的な学習が展開できるようになった。また、ICTを新型コロナウイルス感染防止対策にも活用し、学習を継続していくことができた。 課題 ●いじめや問題行動、不登校児童等への支援について、関係機関と連携し迅速かつ具体的な対応を行うこと。 ●教職員の「負担軽減・業務改善」に向けた取り組みを推進すること。

4 評価表 ※評価基準 [A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営目標、方針 校務分掌組織 適所への適材配置 職員会議等の運営 予算の執行・決算、監査等 	B	○全教職員が、学校経営目標、方針を理解し、教育活動にあたっている。 ○コロナ禍における学校行事の変更などにも柔軟に対応し、児童の学びを保障している。 ●教職員の共通理解・共通行動の徹底に課題がある。

学校運営に関するもの	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成 	A	<p>○研修主任を中心に、計画的に研究を進めている。</p> <p>○道徳科など、外部指導者を招いた研修も充実している。</p> <p>○各学力・学習状況調査の考察などから、授業改善に努めている。</p> <p>○「一人一公開授業」を推進した。</p> <p>●実技教科の研修が少なくなっていることが課題である。</p>
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用 	A	<p>○新型コロナウイルス感染防止対策について、保健主事、養護教諭、環境主任などが連携し、適切な対応を継続している。また、随時対応を見直し、教育活動との共立を図っている。</p>
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	A	<p>○キャビネットや書庫が整理されており、個人情報などの文書が適切に保管・管理されている。</p> <p>○「個人情報持ち出し簿」が適切に活用されている。</p> <p>●修繕が必要な施設設備について、児童教職員の安全を第一に、計画的に修繕を行う。</p>
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	A	<p>○学校運営協議会において、学校の諸課題を熟議している。その結果、様々な改革が進んでいる。</p> <p>○学校開放などはオンラインを活用する等、密を避けた形で実施している。</p> <p>○オンラインによるアンケートで、広く保護者の意見を取り入れ、素早く教育活動の改善を行っている。</p> <p>○PTAのクラスルームを作成し運用している。</p> <p>●コロナ後のPTA活動の在り方や地域とのつながりについて検討していく必要がある。</p>
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	B	<p>○中学校区で決定した目指す子ども像、研究主題をもとに連携して研究を進め、昨年11月2日に研究発表を行った。</p> <p>○オンラインを活用して研修を行うことで、移動時間が短縮でき、効果的な研修を行うことができている。</p> <p>●オンラインによる研究授業参加や協議会運営について、さらに工夫する必要がある。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<p>○コロナ禍における教育活動であったが、オンライン学習や分散型の授業参観・学校公開等も実施し、柔軟に対応することができた。「どのようにしたらいいのか」「何ができるか」の視点で、工夫・改善を行った。</p> <p>●コロナ終息後のマスク着用や飛沫防止ガードの取り扱いについての方針を固める必要がある。</p>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<p>○ICTを効果的に活用した学習の推進が進展した。</p> <p>○一人ひとりのつまずきや課題の把握に努め、個に応じた支援を充実させた。</p> <p>●外部人材の活用が進んでいない。感染防止対策を講じながら推進していく。</p>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<p>○「全校一斉道徳授業」「みんな友だちの日」「人権週間」「障がい者の日の取組」など、学校全体で道徳教育を推進することができた。</p> <p>○外部指導者による指導を生かし、全職員一斉で授業研究会を行い、授業改善を行うことができた。</p> <p>●各教科・領域、学校行事に道徳教育のねらいを明確にしていくことや「清門小スタンダード」の確立が課題である。</p>
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	A	<p>○担任とALTが協力して、児童が主体的に活動する学習を展開している。児童の表現力が向上している。</p> <p>●英語だけでなく、世界の国々の文化に関心をもてるような工夫を行っていく。</p>
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	B	<p>○「あいさつ運動」やこれまでの「子どもまつり」を「縦割り活動」として行うなど、方法を工夫して実施することで潤いのある学校生活となった。</p> <p>●委員会活動やクラブ活動について、活動内容を見直していく必要がある。</p>
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<p>○ICTを活用した発表等を系統的に指導することで、児童の発信力が向上した。</p> <p>●評価方法や評価の視点の研究、内容の精選・充実が必要である。</p>

⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、児童理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携 	A	<p>○生徒指導委員会では、校内の課題に対して迅速に対応することができている。</p> <p>○いじめ防止対策委員会では、外部有識者も交え具体的な協議を行っている。</p> <p>○教育相談部会では、報告だけでなく、必要に応じてケース会議を行い、全校で共通した対応を行えるようにしている。</p> <p>○教室に行くことができない児童も、教育相談室を開放することで登校し、前向きに学習に取り組む姿が多くみられるようになった。</p> <p>●不登校児童に対する関係機関との連携をさらに進めていく必要がある。</p>
⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の立案 ・指導内容の充実 ・中学校との連携 ・啓発的経験の充実 ・家庭、地域との連携強化 	B	<p>○キャリアパスポートについて、継続して取り組むことで、児童自身が自己の成長を振り返るきっかけとなっている。</p> <p>●各教科・領域、特別活動との関連が明確になっていないことが課題である。</p>
⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 	A	<p>○通常学級との交流学习や、特別支援学級だより等を通して学校全体に特別支援学級の様子が伝えられている。</p> <p>○特別支援学級では、個別の指導計画・支援計画に基づき、個に応じたきめ細かな指導・支援、教育がなされている。</p> <p>○特別支援教育コーディネーターを中心に、関係諸機関と連携・協力し、支援体制が充実できた。</p> <p>●通常学級に在籍する特別なニーズを要する児童への支援を充実させていく。</p>
⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 	A	<p>○「学校図書館だより」や学校図書館前廊下の掲示など、読書や本に親しむための工夫を積極的に行っている。</p> <p>○学校図書館の利用を計画し、すべての児童が常に本を手元に置くことができている。</p> <p>●コロナ終息後を見据え、学校応援団による読み聞かせを一層充実させていく必要がある。</p>
⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	A	<p>○校内研修を重ねることで、全教員がICTを活用した効果的な授業を行うことができている。</p> <p>○事務職員と連携し、必要な周辺機器を整備することができている。</p> <p>●児童に対する情報モラル教育、保護者に対する啓発が大きな課題である。</p>

⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	A	<p>○「人権週間」を中心に、全校で人権に関する教育が推進されている。</p> <p>○毎年、教職員の校内研修を実施することができている。</p> <p>●多様化する人権問題について、その正しい理解と指導の充実を図っていく。</p>
-------	--	---	--

(様式1・小学校用③)

草加市立清門小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・読書タイム(親子読書デー等) ・計算タイム ・国語タイム ・家庭学習チャレンジ週間 	B	<p>○読書100冊達成者には校長が直接表彰を行うなど多くの取組を行っている結果、各調査からも本校の読書量は多いことがわかっている。</p> <p>○各学力調査の考察から、木曜日に国語タイムを実施し、課題となっている領域を中心に全校で取組を行い、少しずつ効果が表れてきている。</p> <p>○職員室前廊下に家庭学習ノートを掲示することで、どのような家庭学習ができるのか多くの児童がイメージを持つことできた。</p> <p>●計算タイムや国語タイムは、さらに計画的に実施できるようにしていく必要がある。</p>
	体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・さわやかタイム ・体力向上レベルアップカード ・持久走の取組 ・なわとび教室 ・サッカー大会 	B	<p>○コロナ禍における運動は制限も多くあったが、場やルール工夫などで楽しんで運動することができた。</p> <p>○持久走の取組は、個々の体力に合わせてためあてを設定しやすく、安全に行うことができた。</p> <p>●児童の体力低下を防ぐために、様々な機会をとらえて運動の機会を設ける。</p>
	学校応援団	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の登下校時の安心・安全 ・児童への学習支援 	B	<p>○各町会・自治会、平成塾、関係団体、PTA関係者と連携・協力した旗振りや見守りパトロールを実施し、児童の登下校の安全・安心確保について、充実している。</p> <p>●学習支援に関する活動の実施について、検討が必要である。</p>

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- ・学校評価アンケートにおいて、本校の教育活動は、学校教育目標「なかよく・かしこく・たくましく」に基づいて「進められている」「概ね進められている」と答えた保護者は96%である。また、開かれた学校づくりに関する項目でも、97%の保護者が「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」と答えている。今後も、学校からの情報発信をさらに充実させ、地域・家庭との連携を深めながら信頼される学校を目指していく。
- ・新栄中学校区で教育研究奨励校として委嘱を受けている「自己肯定感・自己有用感を育む授業づくり」の研究発表会を実施した。各調査において、その成果が表れてきている。また、子どもが「解いてみたい（目はキラキラ）、考えてみたい（心はワクワク）」となるような授業を目指し、教員一人ひとりが主体的に「一人一公開授業」を実践することができた。
- ・定期的に生徒指導委員会、教育相談部会、いじめ防止対策委員会を開催し、諸課題の早期発見・早期解決に努めている。市教育委員会、子育て支援センター等との連携、スクールソーシャルワーカー、さわやか相談員のいじめ防止対策委員会への招致、スクールカウンセラーの積極的な活用など、関係諸機関との連携を推進している。
- ・GIGAスクール構想による児童一人1台タブレットの配置、各教室に導入された大型テレビ、回線の強化など、ICTを活用した学習がスムーズに行える環境が整ってきている。教職員の研修も行い、より効果的に様々な学習場面で活用している。
- ・新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、学校教育を継続し児童の学びを保證することができた。今後は、コロナ終息後のマスクや飛沫防止ガードの扱いに配慮しながら「安全・安心な学校」を目指し、全教職員で取り組んでいく。

6 次年度の改善策

- ・コロナ終息後の教育活動について働き方改革の方針をふまえながら、柔軟に対応していくことが重要である。校長の示す「目指す学校像」「学校経営方針」を基に、教育目標の実現に向けて全教職員が共通理解・共通行動で取り組む。
- ・これまでの「幼保小中を一貫した教育」の研究と「自己肯定感・自己有用感を育む授業づくり」を土台として、学校課題研究を推進していく。
- ・教職員の「働き方改革・意識改革」をさらに進め、心身ともに健康な状態で児童によりよい指導ができるようにしていく。